

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年02月01日

計画の名称	14 米子駅周辺における安全・安心な歩行空間の創出（防災・安全）											
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）										重点配分対象の該当	○
交付対象	米子市											
計画の目標	JR山陰本線で分断された米子駅周辺地区において、南北自由通路及び駅南広場を一体的に整備することにより、駅へのアクセス改善による利便性向上や、交通結節点としての機能強化を図り、併せて、高齢者や障がい者など歩行者に配慮したユニバーサルデザイン化（エレベーター、視覚障がい者誘導用ブロックなど）を行うことで、安全・安心な歩行空間の創出を図る。											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	3,894	A	3,894	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 平成28年	中間目標値	最終目標値 平成32年
1	1日あたりの駅利用者数を7,100人から7,900人に増加させる。 1日あたりの駅利用者数を計測する。（駅利用者数=JR利用者+自由通路を利用するがJRは利用しない者） 最終目標値7,900人 7,186人【（JR利用者見込数(H32):推計人口143,729人×5%）】+719人【（自由通路を利用するがJRは利用しない者:7,186人×10%）】<5%:人口に対する駅利用者数の割合（H26実績値）、10%:JRは利用しないが自由通路のみを通過する者のJR利用者数に対する割合（自由通路を整備した他駅事例より推計）>	7100人	人	7900人
2	歩行者の駅南地区から米子駅までのアクセス時間を4分短縮させる。（現況では米子駅のアクセスは駅の北側からに限られているため、駅南地区の住民は大幅な迂回が必要となっている。ユニバーサルデザイン化された南北自由通路・駅南広場を利用することで、高齢者や障がい者など歩行者が安全に安心して駅を利用でき、アクセス時間も短縮される。） 歩行者の駅南地区から米子駅までのアクセス時間を算定する。 最終目標値4分短縮=【（整備後のアクセス時間9分）-（整備前のアクセス時間13分）】	13分	分	9分

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
・1日あたりの駅利用者数：現況値7,100人（H26年度実績値）・歩行者の駅南地区から米子駅までのアクセス時間：現況値13.0分（H27年度算定値）														

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	R02			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	米子市	直接	米子市	S街路	改築	米子駅南北自由通路(自由通路)	自由通路整備 L=0.1km	米子市						3,410	-	
	A01-002	街路	一般	米子市	直接	米子市	S街路	改築	米子駅目久美町線(駅南広場)	駅南広場整備 A=0.6ha	米子市						484	-	
												小計						3,894	
												合計							3,894

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制 米子市都市整備課にて実施	事後評価の実施時期 令和5年2月
	公表の方法 米子市ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	継続して事業実施中であり、効果の発現状況は見られないが、鉄道施設や機械・電気設備及び支社ビル等のJR物件移転補償やテナント補償を実施し、事業の推進を図った。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<p>今後も継続して整備を実施し、安全・安心な歩行空間の創出を図る。 米子駅南北自由通路（自由通路）：引き続き整備中であり、令和5年度完了予定。（供用開始は令和5年8月予定） 米子駅目久美町線（駅南広場）：引き続き整備中であり、令和5年度完了予定。（供用開始は令和5年8月予定）</p>	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	7900人	本事業は工事に支障となる地中構造物及び想定と異なる地盤状況への対応により延伸しており、次期整備計画（整備計画名：24 米子駅周辺における安全・安心な歩行空間の創出（防災・安全）（期））において継続して実施中であるため、最終実績値は当初現況値と変わらない。当該事業完了後、最終実績値の算出を行う。
	最終実績値	7100人	
2	最終目標値	9分	本事業は自由通路工事と密接な関連があり（工事用車両の仮設通路設置や作業ヤードの重複等）、自由通路工事の工程変更に伴い着工時期が遅れ、次期整備計画（整備計画名：24 米子駅周辺における安全・安心な歩行空間の創出（防災・安全）（期））において継続して実施中であるため、最終実績値は当初現況値と変わらない。当該事業完了後、最終実績値の算出を行う。
	最終実績値	13分	